

自然の中で芸術を感じる

❖ アートフェスティバル

石橋文化センターで11月3日、アートフェスティバルが始まりました。「文化センター全体をミュージアムに」をコンセプトに、屋外アート作品などを展示。水上都市を作るワークショップも開催されました。

友人とアート作品の周りで遊んでいた鹿毛翔豪さん（大橋小2年）は、「いろいろな色の魚が居てきれい」と話していました。同イベントは12月2日(日)まで開催されます。



九州産業大学芸術学部の学生の作品。園内各所でアート作品を楽しめます

宇宙開発の未来を語る

❖ 若田光一さんが講演

10月24日から26日まで、久留米シティプラザで「宇宙科学技術連合講演会」が開かれ、研究者など約1400人が集まりました。

一部の講演は市民にも公開され、25日には宇宙飛行士の若田光一さんが登場。有人宇宙開発の現状や将来について「アメリカとロシアの競争の時代から、多くの国による協調の時代に移ってきている」と話しました。



長期的には人類の活動領域を火星まで拡大したいと話した若田さん

商店街にコスプレイヤー集う

❖ ほとめきハロウィンパーティー

10月27日、一番街商店街アーケードで「ほとめきハロウィンパーティー」が開かれました。商店街が、アニメのキャラクターやオリジナルの衣装で仮装した子どもたちなどでにぎわいました。

お姫様のコスチュームで参加した田中咲良ちゃん（西町・年長）は、「かわいなお洋服を着て、お菓子がもらえてうれしい」と話しました。



仮装コンテストの結果発表。個性的な衣装が目を引きます



10月30日、ホークス上林選手のホームランで歓声が上がりました

久留米から熱い声援

❖ プロ野球日本シリーズパブリックビューイング

10月30日から11月1日まで、久留米シティプラザ六角堂広場で、プロ野球日本シリーズのパブリックビューイングが開かれました。

仕事帰りの人や家族連れなどが観戦に訪れ、思い思いのチームを応援。ホームランやファイナルプレーに、歓声が上がりました。11月3日、ホークスは広島東洋カープに4勝し、日本シリーズを制覇しました。

市政の動き

電子市役所に 一歩前進

久留米市は11月中旬に、全ての管理職の事務処理用パソコンをWiFi対応端末に切り替えます。

大久保勉市長が進める「e-市役所」の取り組みの一つで、市庁舎にWiFiを整備して、どこでもパソコンを使って会議や打ち合わせができるようになります。これにより、会議資料のペーパーレス化を進めます。来年度以降、管理職以外の職員のパソコンも順次、同様の端末に切り替えていく予定です。

☎情報政策課(☎0942・30・9060、FAX0942・30・9708)



端末は折り畳んでタブレット型に。会議でも便利です

寄託作品を更新 17点が入れ替えに

久留米市は、28年10月から、石橋財団の美術コレクションの中から200点を預かり、美術館で保管・活用してきました。9月末に契約が満了したことから、期間を2年半延長。17点が、青木繁の「天平時代」など新たな作品と入れ替えになりました。

寄託作品は、今後の美術館の展覧会で公開していきます。

☎文化振興課(☎0942・30・9224、FAX0942・30・9714)



青木繁《天平時代》1904年

久留米の農産物を ダンスでPR

久留米市は、7月に制作した地元農産物のPR動画に合わせた、オリジナルダンスをつくりました。

久留米信愛短期大学・からだあそび研究会が考案。歌詞の中にある農産物を動きで表現し、誰でも分かりやすく、楽しく踊れるダンスです。11月10日、11日のふるさとくるめ農業まつりで初披露の予定。ダンスを通じて、久留米の農業をPRします。振り付け動画は来年3月までにYouTubeで公開します。

☎農政課(☎0942・30・9163、FAX0942・30・9717)



学生と市職員の練習風景。両手で米の形を表現しています

旬の柿を福岡で トップセールス

11月2日、福岡市の中央卸売市場青果市場で、久留米市の大久保勉市長と、うきは市の高木典雄市長が、旬を迎えた富有柿のトップセールスを行いました。

大久保市長は、「久留米が柿の一大産地となったのは、市場関係者の皆さんのおかげです。これからもご協力をお願いします」とあいさつ。ブースに集まった市場関係者に、カットした柿やサラダなどを振る舞いました。

☎農政課(☎0942・30・9163、FAX0942・30・9717)



市場関係者に柿の試食を勧める大久保市長